歴史資料ネットワークの活動と広域連携

加藤明恵
（神戸大学大学院人文学研究科/歴史資料ネットワーク事務局）

第30回保存フォーラム
2019年12月19日＠国立国会図書館東京本館

歴史資料ネットワークとは

大規模災害時における歴史資料の救出・保全を活動目的とするボランティア団体

・事務局･･･神戸大学文学部

・代表･･･奥村弘／事務局長･･･吉原大志

・会員･･･約300名

1995年 阪神・淡路大震災～

未指定文化財（特に民間所在）を中心に救出・保全

→全国各地で「史料ネット」が設立・活動

史料ネットの設立

設立･･･1995年２月４日

@尼崎市立地域研究史料館

←1月17日　阪神・淡路大震災の発生

最大震度7　M7.3　死者6,434人

史料ネットの設立

→民間所在の歴史資料を救出・保全するため、
京阪神の歴史学研究者を中心に発足

活動当初～　史料救出・保全の目的
＝被災者の生活復興の一環
歴史学者個人の研究のためではない
←歴史研究者は大災害時に何ができるのか

巡回レスキューの開始

95年3月～　巡回レスキューを本格的に開始

　←地元の郷土史研究者、自治体と連携

「歴史資料」をめぐる歴史研究者と市民とのあいだの認識のズレが明らかになる

阪神・淡路大震災時の史料レスキューの様子

地域の歴史文化に関わるシンポジウム・市民講座の開始

95年5月～　歴史資料や地域の歴史について、歴史研究者と市民とがともに認識を深めていく活動

第1回震災復興歴史と文化を考える市民講座
（1995.9.15@兵庫県教育会館）

歴史と文化をいかす街づくりシンポジウム
（1995.5.6@アルカイックホール・オクト）

史料ネットの活動のあり方

大規模災害時に際して、市民とともに地域の歴史文化・歴史資料を守り伝えていく

→日常的にも関係性をたもちながら活動

→日常的な関係が災害時に活きる

災害からの資料保全

・・・長期的な活動、多くの人手が必要不可欠

＋全国各地で多発する災害

ボランティアとともに持続的に活動することが必要

風水害対応とワークショップ

2004年　風水害対応の開始

　→被災資料修復ワークショップの開始

＝史料保全活動の担い手を広げる活動

水損史料救出保全活動の記録

水損史料修復ワークショップ

風水害対応とワークショップ

被災資料保全活動

・・・特別な技術がないとできないことは多い

⇔技術がなくてもできることはたくさんある

ワークショップ

＝被災資料保全活動は誰にでもできる

水に濡れた資料は乾かすことができる

という考え方の普及（>資料保全の技術の普及）

参加者との意見交流の場

現在の活動

・『史料ネットNews Letter』の発行（年3回）
・総会・シンポジウム
・地域史卒論報告会
・兵庫区歴史講演会
・被災資料修復ワークショップ
・災害時の史料救出・保全活動
・各地史料ネットへの支援
・被災史料クリーニング作業
・屏風や襖の下張文書調査　　・・・等々

「史料ネット」活動の広がり

・全国各地に約25の「史料（資料）ネット」
・各史料ネットはそれぞれ固有の活動を展開し、
　相互にネットワークを結ぶ
・災害時の全国からの支援
　→日本全国で被災史料救出・保全活動
　　各地域の実情に規定された多種多様な活動

史料ネット活動の担い手の広がり
史料ネットの地域的な広がり

「史料ネット」活動の広がり

一般ボランティアを募集しておこなっている岩手県大船渡市Ｓ家文書（東日本大震災で被災）のクリーニング・写真撮影

「史料ネット」活動の広がり

2018年台風21号への対応
・大阪・神戸で１件ずつ史料レスキュー
・ボランティアを募集して作業中

「史料ネット」活動の広がり

2018年台風21号対応―課題も浮き彫りに

・大阪周辺の史料所在情報、被災情報がほとんど入ってこない

・学会連合という組織形態が十分活かせていない

→京阪神におけるネットワークのあり方をもう一度見直す必要性

広域支援体制の構築

人間文化研究機構「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」（2018年度～）

・・・拠点：人間文化研究機構・東北大学・神戸大学

・所在資料情報の把握

・データ記録化

・相互レスキュー体制の構築

・教育プログラムの開発　　など

→全国的な資料保全活動のネットワーク構築を支援

広域支援体制の構築

広島史料ネットへの支援

【2018年西日本豪雨被災史料の乾燥処置】

広域支援体制の構築

2019年台風19号で被災した史料のレスキュー　（栃木県佐野市）
※宇都宮大学と共同

さいごに

史料ネットはボランティア団体

・できる範囲でできるだけのことを

　→相互に支援し合うための緩やかなネットワーク

　　多様な人々がそれぞれできることを持ち寄る

　　※主要メンバーは歴史研究者が多い

・とりあえず／とにかくやってみる

・走りながら考える